



大 法 蔵

10月 特別号
令和6年10月1日発行
校長 安藤 裕子

本格的に2学期の学習へ取り組む時期となりました。
今後も、下記に挙げている取組を、子ども達の学力向上
へ向けて取り組んでいきます。御理解と御協力をお願いいた
します。



全国学力・学習状況調査

下山田小学校

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

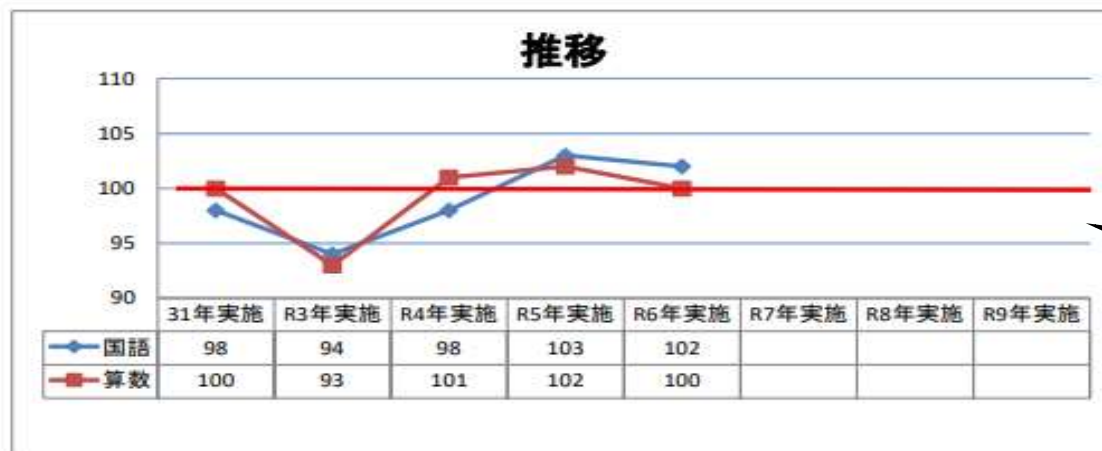
令和6年度全国学力・学習状況調査【小6】において、国語110以上 算数100以上

3.指標に向けての取組

□毎月1回の授業評価アンケート(児童)、授業チェックリスト(教師)を活用し、授業改善を行う。
□自分で目標を決め取り組み、達成感を味わわせるため、「未来への一步」の取組、漢字検定・算数検定の取組を継続して行う。
□国語科においては、読解力向上の取組を継続して行う。本年度も基礎・基本の学力を活用する条件付記述式問題に特化し、系統立てた取組を短期的・集中的に行う。具体的に時間を決めて問題を解かせ、専科が解説を行う。
□国語科の言葉の学習においては、個に応じた家庭学習を行うために、キュピナ(AIDリル)や10Minutes+α(筑豊教育事務所作成の問題集)等の活用を行う。
□算数科においては、誰一人取り残さないようにするために、習熟度別指導など単元構成を工夫する。単元テストの通過率を短いスパンで見とり、授業改善し、基礎・基本の定着を図る。
□学力の基盤づくりのため、漢字の学習支援の必要な児童に対し、担当(専科)を決めて、漢字の学習方法を個別に支援する。また、朝の活動では、計算力の向上に向け、計算カードの取組を行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	102	100
嘉麻市	97	99
全国	100	100



5.各学校における分析

□国語科は、全国平均を上回り、算数科は同等であった。
□国語科においては、思考を伴う記述問題の条件に合わせて解答することができず、正答率が低い結果となった。その要因としては、授業中の「書く活動」を設定しているが、条件に合わせての書く活動の設定が不十分であったことが考えられる。
□算数科においては、「数と計算」「データの活用」の領域の正答率が低い結果となった。その要因として、「数と計算」では、除数が小数である計算の理解させることが不十分であったこと。また、「データ活用」では、グラフなどのデータから条件に合わせ、記述する授業場面の設定が不十分であったことが考えられる。

6.各学校における今後の取組

◎「3. 指標に向けての取組」については、継続して行っていく。
「5.各学校における分析」を受け、これから新規で取り組む内容を3点に絞り、学校で組織的・継続的に
行っていく。
□国語科において、条件に合わせて考えを書くことができるように、授業場面で、「書く活動ポイント9」
を活用するための研修を行い、共通理解、共通実践する。
□算数科において、子どもたちが「解きたい」「チャレンジしたい」となる場面を設定するため、単元構成
の中に、A・B層が解きごたえのある「チャレンジ問題」を位置付ける。
□算数科においても、正答率の低い結果となった条件付記述式問題の理解を促すため、全学年で系統
立てた取組を短期・集中的に行い、専科が解説し、組織的に実施する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、
周知徹底できるように継続的に指導する。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴
う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察
指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を
行ったりする。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用し
た個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習状況の把握と個に応じた指
導の工夫を推進する。そのために、各学校においてトリプル80の視点から評価を実施するとともに、学
力向上検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方につ
いて指導する。

全国平均を100とした時、下山田小学校の6年生の結果は、国語102、算
数100で全国を上回るか同等でした。なかなか100に近づくことも難しいの
ですが、100を超えるということは、大変嬉しい事です。

この数値は一つの目安ですが、学びにおいて成果があるのは、日ごろの授業に
子ども達がいっしょに参加し、理解をしていっている証拠です。

